

(別添)

<参考>重症熱性血小板減少症候群について

1 発生状況

平成23年に中国で初めて特定された、SFTS ウイルスに感染することにより引き起こされる病気で、ウイルスを保有しているマダニに咬まれることで感染します。

ウイルス自体は以前から国内に存在していたと考えられますが、平成25年1月に山口県で国内初の感染事例が確認されました（平成25年3月には感染症法上の四類感染症に指定）。令和6年には国内で1年間に猫194頭、犬12頭のSFTS症例が報告されました。

なお、県内では令和2年6月に初めて人のSFTS症例が確認されました。

また、県内ではこれまでに、**犬2症例、猫6症例（このたびの症例を含む）**が確定診断されています。（県内で動物から人への感染は報告されていません。）

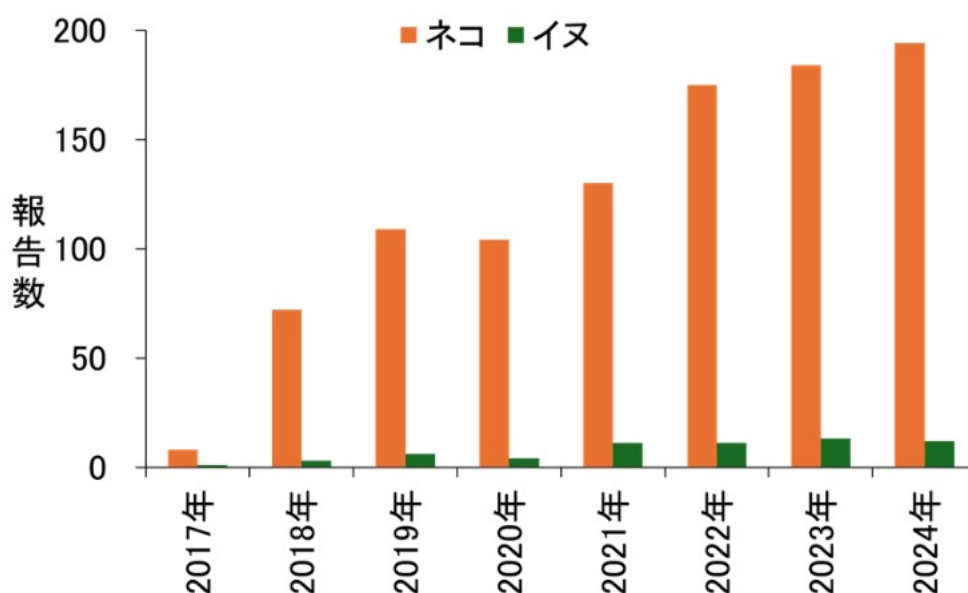


図4. 日本国内におけるSFTS発症イヌ、ネコの報告数
(2017年～2024年、2024年12月31日現在)

出典：国立健康危機管理研究機構ホームページ

<https://id-info.jihs.go.jp/risk-assessment/severe-fever-with-thrombocytopenia-syndrome/20240801/index.html>

2 感染経路

多くの場合、ウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染しますが、近年、発症した犬や猫から人へ感染する事例が報告されています。

3 症状

人の場合、マダニに咬まれてから6日から2週間程度の潜伏期間を経て、主に発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が出現し、時に頭痛、筋肉痛、神経症状（意識障害、けいれん、昏睡）、リンパ節腫脹、呼吸器症状（咳など）、出血症状（紫斑、下血）を起こします。

犬や猫の場合、発熱、消化器症状（食欲不振、嘔吐、下痢等）、血小板減少、白血球減少等の症状が確認されています。

4 治療方法

人の場合対症療法が主体となりますが、病状の進行が予期される場合には、抗ウイルス薬を使用することも検討されます。

犬や猫の場合、対処療法による治療を行うこととなります。